

はじめに

なぜ「固い文章」が読めないのか？

「活字離れ」が問題にされるようになって久しい。

たしかに、情報を得るだけなら、テレビでも、マンガでもその役は果たせる。だが、様々な思想にふれ、自分の思考を深めていくためには、どうしても固い評論を読みこなさなければならぬ。

そんなことに興味はないという人でも「大学入試」「資格試験」「就職試験」を突破するために、本格的な評論（岩波新書、中公新書などの単行本、雑誌の論文等）を読みこなす力はどうしても必要だ。日常接している新聞の文化欄・学芸欄の署名記事ぐらい読めなければ困るという人も多いだろう。現代社会に生きていく限り活字が苦手と言ってはいられないのである。

評論が読めない最大の理由はそこに頻出する単語の意味が分からないことである。

ではどうすればよいか。国語教育の現場では「知らない単語があったら辞書を引け」と言わ

れ続けてきた。実はこれが評論を読む訓練を挫折させる最大の理由なのである。

私は予備校という教育現場で大学受験生に「現代日本語」（あえて「国語」とは言わない）を教えていてこのことに気づいた。彼らは現代文の予習は辞書を引くことだと信じこんでいる。まじめな生徒になると、単語の意味をわざわざノートに写してくる。

では、彼らはその単語の使い方をきちんと理解できているのだろうか。答は否である。意味ぐらい分かったのだろうか。これも答は否である。つまり、彼らはまったく無駄なことに大変な労力をそそいでいるのである。

なぜ、辞書を引いても意味すら理解できないのか。それは、抽象的なものが多い「評論類出単語」についての辞書の説明があまりに「不親切」あるいは「不適切」で、時には明確に誤っているためだ。

「辞書を引け」と生徒に強要する教育者に聞きたい。あなた達は本当に自分で辞書を引いているのか。もし、引いているのなら、その定義に不自然さを感じないのか。これで生徒が理解できると思えるのか。

たとえば「謳歌」という単語がある。代表的な辞書の定義はこうだ。

声をそろえてほめたたえること。「青春を―する」(広辞苑第五版)

本来の意味はここに書いてあるものかもしれないが、この意味で使われている文章にお目にかかることはまずないだろう。

さらに問題なのは「定義」と「例文」がまったく一致していないことだ。「青春を謳歌する」とは「青春を声をそろえてほめたたえること」だと、この辞書の執筆者は本気で考えているのだろうか。

この場合の「謳歌」は「思う存分、遠慮なく楽しむ」という意味である。評論でも「80年代には日本人は豊かな生活を謳歌していた」のように使われている。手軽な「中辞典」ではなく、「大辞典」できちんと単語は調べなくてはいけないという意見もよく聞くが、この「謳歌」という単語に関しては「中辞典」の方がきちんとした定義を書いていた。

「相対」という単語は「相対的」「相対化」という形で、評論に頻出しているが、辞書での定義は次のようなものである。

-
- 1 向かい合っていること。あい対していること。また、対立すること。
- 2 [relativity]互いに他との関係をもち合って成立・存在すること。↓絶
対。(大辞林第二版)
-

この定義では評論文では最も大事な用法である「日本文化を相対化する」といった文の意味が理解できない。本来どのような意味が掲載されるべきかは、本書の「相対／絶対」の項で確認してほしい。

私がこの本を書こうと思った理由は三つある。

一つは、評論文を読みなれていない多くの人に評論の「ガイドブック」を提供したいということ。知らない単語が出てくるたびに辞書を引いていたのではなかなか一冊の本を読み通すことができないだろう。そこでこの本では「評論頻出単語」に絞り込み、その用法を細かく説明することにした。この本を先に読んでいれば評論を読むのがかなり楽になっているはずだ。

二つ目は、日本の辞書をより良いものにしていくためだ。言葉を学ぼうとする人間にとって、辞書は不可欠のものだ。ところが、現状では辞書を引いても意味が分からないものが多すぎる。この本がきっかけとなって、定義や例文がもつと実際の使用に合ったものになってくれればと願っている。重要な単語については、実際の評論でどう使われているかを知ってもらうための引用をつけているので、読者の方々もどういう定義が適切かを考えてほしい。

三つ目は、単語の使い方方を練習できる本が必要だと思ったからだ。そこで各章末に「大学入試」「公務員試験」「資格試験」で単語力を試しているものを載せ、その解答・解説をつけることにした。単語の定義を丸暗記することではなく、「文脈を把握する力」や「言葉のイメージ」が大切であることを、問題演習の中で実感してもらえらると思う。

二〇〇四年六月

辻本 浩三

各章の構成とねらい

第一章 「こんな」定義」でホントに分かる？」

まずこの章では、評論などに類出する言葉の中で、実際の使用と辞書の定義が完全にずれているものを取り上げた。はつきり言えば、説明が特にひどいものである。読むと害になるものである。実際はどう使われているかの説明と評論家の文章からの用例(引用)をつけているので、辞書の定義のいい加減さが理解できるはず。

第二章 「説明」はもっとていねいに

この章で取り上げた言葉についての辞書の説明は間違っているとまでは言えない。ただ、やはり分かりにくい。実際にどう使われるかが分からなければ辞書は役に立たない。もう少ししていねいに説明すべきだと思うのだが。

第三章 ここまで分かれば「評論」が読める

この章にある単語まで理解できれば、評論文や日常の読書において困ることはほとんどないだろう。特に辞書の定義に問題があるわけではないので、辞書の引用は載せていないが、使い方が難しいものには例文をつけておいた。

第1章 **「こんな「定義」でホントに分かる？」**

逆説(パラドックス) — 16	具体(具象)/抽象/捨象 — 49
自律/他律/自立 — 18	還元 — 53
謳歌 — 20	共生 — 55
アイデンティティ — 21	普遍/一般/特殊/個別 — 56
帰属意識/モラトリアム — 24	「」/『』 — 60
理性/感性/悟性 — 26	言語 — 62
近代 — 31	記号 — 65
子ども/狂人/未開人 — 34	コード — 68
対象/対照/対称 — 35	コンテクスト(文脈) — 69
相対/絶対 — 40	観念/概念 — 69
文化相対主義 — 44	理念(イデア/イデア) — 73
デジタル/アナログ — 45	認識 — 75
ハード/ソフト — 47	
	事実/真実 — 76
	聖/俗 — 78
	カタルシス — 80
	常識 — 81
	パラレル — 82
	実存 — 83
	表象 — 84
	二律背反(アンチノミー) — 86
	包摂 — 87
	リベラル/リベラリズム/リベラリスト — 88
	☆問題演習 — 91
	☆問題演習の解答・解説 — 101

第2章 **「説明」はもってどうないに**

イデオロギー — 104	顕在/潜在 — 119
保守/反動/革新 — 105	有機/無機 — 120
一義/多義/二義 — 106	形而上/形而下 — 122
一元/多元/二元 — 108	矮小 — 124
制度 — 110	フェミニズム — 126
帰依 — 111	演繹/帰納 — 126
カリスマ — 112	オブティミズム/ペシミズム — 128
エコロジイ/エコロジスト — 113	陥穽 — 130
カルト — 114	本音/建前 — 131
畏敬/畏怖 — 115	即物的 — 132
合理/非合理/不合理 — 116	自然主義 — 133
表層/深層 — 118	原理主義 — 134
	民族/民俗 — 135
	クレオール — 138
	ハレ/ケ — 139
	罪/恥 — 140
	通時/共時 — 142
	科学 — 143
	自然 — 144
	超自然 — 145
	ミクロ(微視的)/マクロ(巨視的) — 146
	進化 — 148
	☆問題演習 — 150
	☆問題演習の解答・解説 — 158

第3章

「ここまで分かれれば「評論」が読める」

- 自明 — 162
- 主観／客観 — 162
- 文化／文明／未開／野蛮 — 164
- 直観 — 165
- リアリズム／ロマンティシズム — 165
- 画期(的) — 166
- 既知／未知 — 167
- リアリティ／リアル — 167
- 前衛(アヴァンギャルド) — 168
- 契機 — 168
- 皮相 — 169
- 葛藤 — 169
- カテゴリー(範疇) — 170
- 皮肉(アイロニー、イロニー) — 170
- 形骸 — 171
- 残滓 — 171
- 桎梏 — 172
- 緊張／弛緩 — 172
- 正統／異端 — 172
- ポジティブ／ネガティブ — 173
- 齟齬 — 173
- 乖離 — 174
- 卑近 — 174
- ユートピア — 175
- ジレンマ(ディレンマ) — 175
- ヒエラルキー — 176
- ペダントイック — 176
- プロバガンダ — 176
- コンプレックス — 177
- トラウマ — 178
- アナロジー — 178
- 相殺 — 178
- ドグマ — 179
- ナイーブ — 179
- 造化 — 180
- 詭弁 — 180
- 事大主義 — 180
- 画一 — 181
- 疎外 — 181
- 因果律 — 182
- 決定論 — 182
- 自我 — 183
- 言霊 — 183
- コスモス／カオス — 184
- ロゴス — 184

- カリカチュア(戯画) — 185
- 以心伝心 — 185
- 紋切り型／常套／ステレオタイプ／陳腐／類型的／情性 — 186
- 不可 — 187
- 無常 — 188
- 諦念／諦観 — 188
- 恣意 — 189
- 虚構(フィクション) — 190
- 創造／模倣 — 191
- 神話 — 191
- 止揚／揚棄／アウフヘーベン — 192
- 象徴 — 192
- 主体／客体 — 193
- オリエンタリズム — 194
- エントロピー — 194
- 芸術至上主義 — 195
- 超克 — 195
- 彼岸／此岸 — 196
- 和魂洋才 — 196
- バイアス(バイヤス) — 197
- コミット — 197
- 欺瞞 — 197
- パラダイム — 198
- 原体験／原風景 — 198
- レトリック(修辞・修辞学) — 199
- 唯心論／観念論／唯物論 — 200
- 功利的 — 201
- ア・プリオリ／先験的／先天的／生得的 — 201
- ☆問題演習 — 202
- ☆問題演習の解答・解説 — 212

●索引 — 222